

週 報

こひつじ

第41巻 39号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

ナインの女

その二 イエスの同情

このような悲しみを、どう乗り越えたらよいのか。これは現実には悲しみの中にある人たちの叫びに違いない。

福音書には、さまざまな人たちの悲しみをイエスをご覧になった様子が多く記されている。

そういう人たちにイエスは言われた。

「あなたがたは、世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」(ヨハネ一六の三)

では、この女性に対してはどうだったか。それがこの箇所から学ぶ第二のことだ。

イエスは、まず深い同情を示さ

英語では、compassion である。

感情を共にするという意味だ。

イエスは、神であるにもかかわらず、人となられたので、人の痛みを感じるにおおきになる。

「主は、ご自身が試みを受けて苦しめたので、試みられている者たちを助けるにおおきになるのです」(ヘブル二の一八)

また言う。

「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」(ヘブル四の一六)

「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになつたのですか」

という言葉ではなかつただろう

人の感情の容積が大きければ、それだけ、その感ずる重荷も、自分ひとりから、家族、社会、民族、全人類へと拡大されてゆく。同情する側の魂が大きければ、それだけ、その同情は普遍的となる。イエスが、単なる人ではなく、神であつたことは、彼の同情が無限であることを示していると言えるだろう。

このようにイエスが、私たちの心を理解してくださっているという確信が、私たちを日々救うのである。

だからヘブル書の記者は言う。

「主は、ご自身が試みを受けて苦しめたので、試みられている者たちを助けるにおおきになるのです」(ヘブル二の一八)

また言う。

「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」(ヘブル四の一六)

金子みすゞの詩が多くの人々の共感を呼ぶのは、それらの詩が、自分の悲しみや苦しみを投影しているからではないだろうか。こんな詩がある。

私がさびしいときに、

よその人は知らないの。

私がさびしいときに、

お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、

お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、

仏さまはさびしいの。

彼女の心のさびしさは、友人によつても、家族によつてもいやさ

れることはなかった。

そこで彼女は人から離れ、自分の心深くに入ってゆく。そして彼女が「仏さま」という言葉で表現している絶対者に目を向ける。その絶対者とひとり向き合ったとき、彼女の心は深い慰めに満たされるのである。

その絶対者は、彼女がさびしいときに、笑うのでも、やさしくあるのでも、さびしさを取り除くのもなく、彼女といっしょにさびしいと感じてくれる。彼女はそれと十分と思う。

私たちの魂をいやすのは、この同情ではないだろうか。

そしてイエスだけが、いつの場合も、私たちのさびしさや悲しみ、心の痛みをそのまま自分のものとして感じてくださる。

それがイエスの同情である。そして私たちの心は、その同情によって初めて慰められるのである。

(続)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から。

○教会学校は午前一〇時半から。

○説教は坂田壮一さん。

○礼拝後、昼食交わり会。

次週（一〇月一二日）の礼拝

○礼拝、教会学校はともに午前

一〇時半から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝報告

○司会は岩崎宏志さん。

○説教はルカ八章の種蒔きのたとえから語りました。

人には二つの養いがあります。

からだの養いと魂の養いです。からだの養いは食物によります。

では魂の養いは何によるのでしょうか。それは言葉によります。

ですからどんな言葉をどれほど食しているかが大切なのだと思います。詩篇には、

「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ」

とあります。私たちもその人にならいたいのだと思います。

○礼拝後、矢島宅駐車場の清掃をしました。多くの方のご奉仕、感謝です。

○礼拝参加者は八五名（男三二、女五四）、それに子どもが八名、合わせて九三名でした。

牧師身辺

先週の礼拝後、午後二時から大津少年少女合唱団の定期演奏会があり、ぼくたちも出かけました。

来賓席に案内してくださったので、近くで楽しむことができ、感謝でした。歌もミュージカルもすばらしかったです。子どもたちが、何かに打ち込む姿は感動的です。会衆の大きな拍手が印象的でした。

幸子さんは、一〇月四日（土）

の朝に熊本空港から、羽田経由でアメリカに向かいました。シカゴで長女の真紀と合流し、ネブラスカ州のヘイスティングスを訪ねます。

ヘイスティングスと大津町が姉妹都市を結んで三〇年になります。

幸子さんは、当初から、この働きに深くかわり、町長の通訳やホ

ームステイする子どもたちの引率などで何度も訪ねましたので、ヘイスティングスには多くの友人たちがいて、彼らが彼女の来訪を待ってくださっているとのことですよ。交流があるようにお祈りください。

数日前に、近くの牧師さんたちが来られて、毎年一二月の初めに
行なわれる「熊本市民クリスマス、チャリティ・コンサート」の協力を依頼されました。

今年のプログラムを見ると、何と「坂田飛鳥氏によるピアノコンサートとクリスマスメッセージ」とあります。飛鳥さんは坂田壮一、直子夫妻の長男です。ぜひ応援してあげたいと思います。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp
